

修士論文(要旨)

2014年7月

日中複文の構造比較

指導 青山 文啓 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

212J3901

王 爍

目 次

第一章	はじめに	1
1.1	本稿で使用する用語について	1
1.2	日中複文の構造比較	1
1.3	用例に見る日中の複文構造	2
1.4	本稿の構成	6
第二章	「複文」について再考する	8
2.1	複文に関する既存の定義	8
2.2	複文に関する本稿での定義	9
2.3	日本語と中国語の複文データ	10
第三章	同時関係と継起関係	13
3.1	同時関係について	13
3.2	継起関係について	15
第四章	因果関係について	26
4.1	「因为…所以…」について	27
4.2	関連詞を使用しないで翻訳されている複文について	28
4.3	「既然…就…」, 「既然…便…」について	29
4.4	タメについて	30
4.5	原因を表わすカラ, ノデ, タメの比較について	32
第五章	条件関係と仮定関係	35
5.1	条件関係について	35
5.2	仮定関係について	38
5.3	非条件的な用法について	41
第六章	逆接関係について	43
6.1	「虽然…但是…」について	44
6.2	「却」とノニについて	45
6.3	ガについて	46
第七章	まとめ	48
	参考文献	

どの言語で書かれた文章の中でも、おそらく大半の文は複文である。中国語の複文は実にさまざまであり、複雑である。このことは、中国人が小学校で複文を学ぶ最初の段階から、日本語の接続助詞に相当する関連詞の組み合わせを覚えさせられることから分かる。これに対して、一見日本語の複文構造は単純に見える。本稿では、松本清張の『点と線』、およびその中国語版《点与线》から収集した用例を使用し、日中間で複文がどのような構造を持ち、どのように翻訳されるかに関する対照研究を行なった。

本稿は七章に分かれる。第一章には、日本語と中国語の複文構造をそれぞれ挙げた。日本語の複文には、活用形、形式名詞、接続助詞の三つの接続表現が現れる。日本語の接続表現は複文構造(W)において、前方の句の末尾しか現れない。このことに着目すれば、(Wa)活用形、(Wb)形式名詞、(Wc)接続助詞、以上三つの型に分けることができる。つまり、日本語の接続表現に相当するものを中国語では「関連詞」と呼ぶが、中国語の関連詞の現れ方は日本語の接続表現とは異なる。中国語では、関連詞は前方の句の先頭またはその末尾に現れ、さらに後続する句の先頭にも現れる。一方、関連詞の現れない複文も多く見られる。

第二章では、日中両言語の「複文」について分析を加えた。「複文」に関する定義と本稿で使用する文法用語についても再考した。つまり、『点と線』に現れる複文を(A)同時、(B)継起、(C)因果、(D)条件、(E)仮定、(F)逆接、以上六種類の関係に分け、各種関係を表示する用例数を表にまとめた。第三章から第六章までは、六種類の関係ごとに、日中複文について対照研究を行なった。最後の第七章は本稿のまとめである。

第三章から第六章までの考察を通して、各種関係ごとに出現する複文の構造と接続表現の用法が明らかになる。接続表現は一つの間接を表わすとは限らず、二つあるいはそれ以上の用法がある。例えば、関連詞「一边(yi bian)…一边(yi bian)…」も、日本語の接続助詞ナガラも同時関係を表わす。しかし、「一边…一边…」には対比の用法があるが、他方のナガラは逆接関係を表わす。また、日本語の連用形には対比の用法がある。形式名詞タメには原因と目的の用法がある。これに対して、中国語では、「因为(yin wei)…所以(suo yi)」は原因を表わすが、「为了(wei le)」は目的を表わす。また、接続助詞トと関連詞「就(jiu)」も継起、因果、条件、仮定関係を表わし、両者には類似点が多く見られる。さらにトには発見の用法もある。一般にガは逆接関係で使われるが、例えば「申し訳ありませんが」のように、前置きとして使用される場合も多く見られる。

本研究を通して、中国語の関連詞の組み合わせは多様であり、どちらか一方あるいは両方が省略される場合も少なくないことが分かる。例えば、本文に挙げた「因为(yin wei)」と「所以(suo yi)」、「如果(ru guo)」と「就(jiu)」、「虽然(sui ran)」と「但是(dan shi)」である。これに対して、タメは例外であるが、日本語の接続表現が省略されることは稀である。また、対象とした『点と線』の中国語訳では、関連詞が前方の句の末尾に現れる構造(Za)と(Zb)は継起関係に限られる。この点についても、付け加えておく。日本語では、継起にはテカラが、因果関係には(タ)カラが現れるが、因果が継起を前提とすることについても本文で触れた。

ところで、本研究は一冊の小説を使用しただけで、日中複文についての対照研究を行なった。六種類の関係について取り上げたが、扱っていない用法は多いと思う。今後は、さまざまなジャンルから用例を収集し、複文の対照研究を発展させたいと考える。

参考文献：

- 相原茂(1992) 「中国語の複句」 寺村秀夫 [編] 『講座日本語学11：外国語との対照Ⅱ』
明治書院
- 青山文啓(1995) 「ある複文の中の助動詞」 『阪田雪子先生古稀記念論文書』 三省堂
(2013) 「二つの四階層モデル：『文型』と『構造』のための読書ノート」
林四郎 [著] 『基本文型の研究』 ひつじ書房
- 王麗英(2010) 「中国語の複文について」 『愛知淑徳大学言語コミュニケーション学会言語文化』
18
- 邢福义(2003) 《汉语复句研究》 商务印书馆
- 朱德熙(1982) 《语法讲义》 商务印书馆
- 張洪梅(2010) 《实用日语语法精解:复句》 大連出版社
- 寺村秀夫(1981) 『日本語の文法(下)』 国立国語研究所
- 鳥井克之(2004) 「再論 中国語の複文について:新しい中国語教学文法の再構築を目指して」 『関
西大学外国語教育研究』 8
- 豊田豊子(1977) 「「と」と「～とき(時)」 『日本語教育』 33
(1978) 「接続助詞「と」の用法と機能(I)」 『日本語学校論集』 5 (東京外国語大学附
属日本語学校)
(1979) 「発見の「と」」 『日本語教育』 36
(1983) 「接続助詞「と」の用法と機能(V)」 『日本語学校論集』 10 (東京外国語大学附
属日本語学校)
- 前田直子(2009) 『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』 くろしお出版
- 益岡隆志(1993) 『日本語の条件表現』 しろしお出版
- 守屋宏則(1996) 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』 東方書店
- 李光赫(2012) 《条件复句的日汉对比研究》 世界图书出版公司
- 李光赫・张光林・林乐青 (2013) 「逆接条件「WH疑問詞+テモ」形式の日中対照研究」
《语文学刊》1
- 李光赫・张北林・林乐青・张斌(2013) 「逆接複文日中対照と翻訳傾向：“却”とノニ」
《语文学刊》9

例文出典：

- 日本語版：松本清張 『点と線』 新潮文庫 (1971, 改訂版2004)
中国語訳版：林青华[译] 《点与线》 南海出版公司 (2009)